

第4学年4組 国語科 学習指導案

- 1 単元名 気持ちの変化に着目して読み、物語の見どころを紹介しよう
「ごんぎつね」

2 単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
(知識及び技能(1)オ)
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
(思考力、判断力、表現力等C(1)オ)
- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
(思考力・判断力・表現力等C(1)エ)
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝えようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。〈(1)オ〉	① 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〈C(1)エ〉 ② 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。〈C(1)オ〉	① 進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の見どころを紹介しようとしている。

4 単元の概要とねらいについて

本単元は、「C読むこと」の「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。」「文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつこと。」をねらいとする。

児童はこれまで、3年生では「ちいちゃんのかげおくり」の学習で、場面を比べながら読み、感想をもつことを学習している。また、4年生では「白いぼうし」で色やにおいを表す言葉に着目して、出来事と人物の気持ちを捉える学習をしている。文章を主体的に読み進めるために、文章を読んで感じたことや考えたことから学習課題を設定し、登場人物の言動から人柄を読み取ったり、場面のつながりを捉えたりした。「一つの花」では、繰り返し出て来る物や言葉について考えたり、物語の設定や場面の变化を捉えたりして、感想をもつ学習をした。

本単元では、「ごんぎつね」を教材とし、気持ちの変化に着目して読み、考えたことを話し合う。

本教材は場面が明確に分かれており、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを捉えやすい構成となっている。なぜその出来事に至ったのかについて、叙述や根拠をもとに話し合い、それを他者と比べることを通して、自分の考えを見つめ直すことも目的としている。また、本単位では、「情景」という用語が初めて出てくるため、情景描写からも登場人物の気持ちに迫ることができる。

本教材「ごんぎつね」では、色彩表現や、擬態語・擬音語によるイメージの形成につながる表現が多く用いられ、場面の情景や人物の動作、様子などが目に浮かびやすい。具体名詞も多く、特に自然を表す名詞と、村社会の様子を表す名詞を用いて、農村風景の中で起きた出来事が描かれている。しかし、児童たちにとってなじみのない言葉も多く、写真を見せたり説明を加えたりしてイメージをもたせていく必要がある。また、本教材は、中心人物「ごん」が、村人の「兵十」によって最後に撃たれてしまうという終わり方もあり、児童にとって悲しい物語として心に残ると考えられる。一方で、ごんや兵十の気持ちについて、叙述には明示されていないところもあるため、思い込みで作品を読み進めてしまうことも考えられる。登場人物の言動の理由を、根拠をもって自分なりに考え、児童同士で意見を交流し合い、ごんの心の複雑さや、ごんや兵十の気持ちの変化を捉えられるようにしたい。

そこで、本単位では、登場人物の気持ちの変化したことを読み取り、自分の気持ちが動いたところを「見どころ」とする。その見どころを捉え、一人一人に合った方法で、他者に紹介する活動を言語活動として設定する。見どころを捉えるために、演技的な活動や図解を用いて描写に着目させることで、ごんの様子やごんと兵十の距離感等、一読しただけではわからない内容を視覚化し、登場人物の関わりや気持ちの理解を深めたい。登場人物に対して直接的な思いが書かれていないところに対しては、児童同士で考えを交流する活動を行う。このような活動を通して、単純な「感想」だけでなく、「見どころ」を探して学習を積み重ねることによって、叙述や根拠をもとに、「ごんぎつね」の魅力について自分の考えをもつことができるようにしたい。そして、物語のよさや、物語を通して感じたことを他者に伝えようとするすることで、より登場人物の気持ちの変化に迫り、物語を通して自分の考えを表現することができるようにしたい。

5 研究の視点

個別最適な学びにつながる指導や支援（視点1）

○児童が自分に合った表現方法を選ぶことができる言語活動の設定

本単位では、第三次で、物語の見どころを他者に紹介する活動を設定している。児童はこれまでに、本の内容を他者に紹介する方法を多様に学習してきた。その中でも、取り組んでみたい紹介方法をどの児童も選択したが、人数に偏りがなく、それぞれ自信があったり、興味があったりする表現方法が違っている。このことから、紹介する方法を一つに設定せず、児童自身が選択して取り組むことにする。自分に合った紹介方法を選ぶことは、学習の始めから伝えておき、読み取りの段階でも意識できるようにする。

○個々に合った言語活動を充実させるためのワークシートの工夫

自分に合った表現方法で物語を紹介することができるようにするために、「見どころシート」と名付けたワークシートを活用する。これには、気持ちの変化の読み取りに使う、ごんと兵十の心情を表

した曲線に加えて、学習の振り返りとして、印象に残った言葉と感想を記入する。物語が進むに連れて、自分の考えの変化に気付いたり、物語の中心を捉え、自分なりの「見どころ」を発見したりすることができる。叙述に沿った想像や考えができるように、第二次では、図解や演技的活動（役割演技、ホットシーティング）を取り入れ、「見どころ」をよりおさえられるようにしたい。第二次の後半には、自分が取り組む紹介方法を決め、「見どころシート」を使って、自分が紹介するために必要な言葉や表現方法に着目して記録したり、必要感をもって、物語の見どころを探したりする姿を目指す。第二次が終わるころには、自分で見どころを見付け、考えの深まりを実感できるようにしたい。そして、第三次には、「見どころシート」をもとに、登場人物の気持ちの変化があるところ、また、それに伴って自分の心が動かされたところを「見どころ」とし、他者への紹介活動に生かす。心情曲線で可視化された登場人物の気持ちの変化や、毎時間の振り返りとして残している感想などがまとまっていることで、どのような紹介方法を選んでも、「見どころ」を捉えやすく、自分の考えを表現しやすいと考える。

協働的な学びにつながる指導や支援（視点2）

○意見を共有することができるグルーピングの工夫

本単元では、日常生活の話合いの様子を考慮し、意図的に3～4人程度のグルーピングをして学習活動を行う。また、意見交流の際は、全員が話すこと、どの考えも肯定的に捉えることを約束する。そのうえで、友達が発言しているときは、自分と同じ考えや、違う考えという視点をもって聞くようにし、一人で読んだときにはわからなかった視点から読みを深めたり、自分の考えを振り返ったりすることに繋げる。第二次に行う演技的活動は、国語の学習において、友達同士での話合いに不安をもつ児童にとっても、グループで取り組みやすい形だと思われる。

第三次では、同じまたは似たような紹介方法を選択した児童同士でグループになる。第二次で意見交換に慣れた段階で、第三次では同じ目的に向かうグループでの学習となるため、第二次での経験を生かした話合いの充実を狙う。成果物は一人一人が完成させることになるが、目的が同じ友達と一緒に活動することで、困ったことやよかったところを共有しやすいと考える。

学習全体を通して、そのグループでしか交流してはいけないわけではなく、特に第三次では、自由に他グループと交流してよいことにする。これは、児童が自分と同じ場面を見どころにしている友達の意見を参考にしたり、よいと思った表現の仕方を取り入れたりできるようにするためである。そうすることによって、よいと思った意見や表現を自分のグループに持ち帰って広め、活動が深まると考えられる。

○よりよい紹介にしようとするための話合いの視点

第三次では、紹介方法ごとのグループごとに、見どころ紹介をよりよいものにするために、グループによる話合いの時間を「グループタイム」として意図的に設ける。その際、作品から見どころがわかるかどうか話し合うことができるようにするために、話合いの視点を設ける。紹介方法がグループごとに違うため、見どころがわかる表現方法については視点が異なる部分があるため、第三次の最初にグループごとに視点をまとめる。また、作品づくりをしていて困っていることや悩んでいることを

グループの友達に相談できるようにするために、話合いの手順も示しておく。正解を出したり上手なものを見せたりしなくてはならないわけではなく、話し合う活動を通して、友達と意見を交換することで学習が深まり、よりよい表現ができるようになることを実感させたい。

<話合いの視点>

- ・紹介したい相手に伝わる内容になっているか。
- ・見どころがわかるか。
- ・全体的に読みやすいか。

<グループタイムの進め方>

- ①困っていること、相談がある人から話しましょう。
- ②1人の作品を、みんなで読みましょう。
- ③「話し合うこと」に沿って、どんどん意見を言いましょう。

6 指導計画（全12時間）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て
第一次	1	○既習事項やこれまでの読書経験を振り返り、「ごんぎつね」を読む目的や学習活動を確認する。 ○「ごんぎつね」の物語で印象に残ったところを話し合う。	○これまでの読みの学習を振り返り、どのような力がついたか想起できるようにする。
	2	○学習計画を立てる。 どんな「見どころ紹介」の仕方があるか話し合う。	○第三次のごんぎつねを読んで心に残ったところを紹介する活動への見通しをもたせる。 ○「見どころシート」の使用方法を確認する。
第二次	3	○情景を表す言葉に注目し、ごんの気持ちを読む。（1の場面）	○情景について学習することで、情景描写から登場人物の気持ちに迫れることをおさえる。
	4	○うなぎぬすみ事件の前後のごんの気持ちを考える。（2の場面）	○事件前後のごんの様子から、ごんの気持ちの移り変わりを捉えられるようにする。
	5	○いわしぬすみ事件の前後のごんの気持ちを考える。（3の場面）	
	6	○兵十と加助の会話を聞いたごんの気持ちを考える。（4、5の場面）	○第三次の紹介活動の方法を決め、それに沿った言葉や表現を意識させる。 ○役割演技を通して、ごんがどこから、どんな様子で見ているか注目しながら、ごんの気持ちを考えさせる。
	7	○ごんと兵十の気持ちを考える。（6の場面）	○役割演技を通して、ごんの行動描写から、兵十への気持ちを考えさせる。兵十の行動描写から、ごんへの気持ちを考えさせる。
第三次	8	○「ごんぎつね」の見どころを紹介する人（○年生、図書室に置いてもらう等）をグループごとに決める。 ○見どころ紹介づくりの進め方を確認	○紹介する相手は、グループごとに統一する。 ○見どころ紹介のポイントを明確にする。 ○見どころがわかる表現の仕方を共有することで、表現の仕方や構成を自分で考えること

	する。	ができるようにする。
9 10 本時 11	○「ごんぎつね」の見どころを紹介する人(○年生、図書室に置いてもらう等)や、紹介の仕方に沿って、活動する。	○同じ紹介方法ごとに、グループをつくり、「見どころシート」をもとに紹介文を作る。後半には、各グループ内で話し合いをし、紹介したい相手に向けて伝わるものになっているか、意見交換ができるようにする。
12	○単元の学習を振り返る。	○見どころ紹介を見合い、友達の作品を認め合えるようにする。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

○見どころシートで読み取ったごんや兵十の気持ちの変化をもとに、自分の感想や考えを見どころ紹介に生かして、まとめることができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の展開 (10/12)

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◇評価
3	1 前時までの学習を振り返る。 ・話の内容を一文で書いて、わかるようにしたり、どうしたら見どころがわかるか話し合ったりしたね。 ・各グループで、誰に、どのように紹介するのか確認したよ。	○学習計画や前時の振り返りを確認し、本時の学習の見通しをもてるようにする。
3	2 本時のめあてを確認する。	
	見どころシートを活用して、見どころがわかる紹介にしよう。	
	2 見どころ紹介づくりの流れやポイントや、自分が取り組むことを確認する。 <見どころ紹介のポイント> ・登場人物の気持ちの変化がわかるようにする。 ・「見どころシート」に書いた言葉や感想を取り入れるとよい。 ・なやんだら、グループの友達にも、他のグループの友達にも聞いてよい。 ・見どころを短い文でまとめるよ。 ・新聞の記事をもう一つ考えるよ。 ・自分の感想を書くよ。	○前時にまとめた見どころ紹介づくりのポイントを掲示することで、前時の内容を振り返ることができるようにする。 ○教師が書いた見本や、掲示物を見てもよいことを伝え、参考にするものは様々にあることを確認することで、進んで取り組むことができるよう促す。 ○前時の振り返りをもとに、本時に取り組むことをグループで共有するように促す。

10	3 見どころ紹介づくりをする。 ・サブタイトルは大事な言葉だから、「つぐない」かな。 ・新聞にするには、あと1枠、何を書こうかな。 ・オクリンクを使って、グループのスライドを繋げよう。 ・ごんと兵十の気持ちがわかり合えるのかどうかが見どころだから、それを入れよう。	○「見どころシート」に書いてあることに注目しながら、見どころ紹介をつくることができるように確認する。 ○書く内容を悩んでいる児童には、どの場面を見どころとしているか確認し、目的に応じて友達の紹介や教師の見本を参考にするよう促したり、用具の使い方を指導したりする。 ○物語の要約だけでなく、自分の感想や考えが表現されているか確認し、要約だけになっている児童には声をかける。
8	4 グループごとに、途中経過を報告したり、相談したりする。 <話し合うこと> ・しょうかいしたい相手に伝わる内容になっているか。 ・見どころがわかるか。 ・全体的に読みやすいか。 <グループタイムの進め方> ①困っていること、相談がある人から話しましょう。 ②1人の作品を、みんなで読みましょう。 ③「話し合うこと」に沿って、どんどん意見を言いましょう。	○今回の話合いでは、見どころがわかるかどうかを一番の視点とすることで、アドバイスや認め合いを促す。 ○基本的に肯定的に作品を見合うことを確認し、自信のないところがあっても、安心して作品を見せたり、気になるところを聞いたりできるようにする。
5	5 話し合ったことを全体で共有する。 ・〇〇さんに、見どころがわかるように、兵十のセリフを入れるとよいとアドバイスをもらいました。 ・〇〇さんは、見どころにした場面の理由が書いてあって、自分の考えが入っていると	○見どころがわかる紹介の仕方については、第8時でグループごとに話し合っている。グループタイムの進め方とともに、話し合ったことがわかるように、各グループに資料を渡しおくことで、話合いが充実するようにする。 ○よかったアドバイスや、友達の紹介のよいところなど、後の紹介づくりに生かせることを共有することで、グループタイムで出されたよい気づきを広げる。 ○特に、どのように表現すれば見どころがわかりやすいかという気づきを取り上げる。

	思いました。 ・わたしたちのグループは、キャッチコピーと感想だけでなく、見どころの場面のあらすじを入れたらいいという話をしました。	○自分の感想、考えについて、表現しづらいことが考えられるため、よい表現をしている児童を取り上げる。
12	6 話し合ったことをもとに、紹介の続きをつくる。 ・アドバイスをもらった通り、「○○だと思った。」という自分の感想を入れる。 ・「青いけむり」という言葉を使っている友達を見て、ごんの悲しみのように入れてみよう。	○グループタイムで話し合っ、グループの友達から伝えられた感想を生かして続きをつくるように声をかける。 ○相手意識をもった紹介になっているか確認する。児童の様子によっては、伝えたい相手や、話合いで伝えられたことを確認し、「見どころシート」をもとに内容の助言をする。 ◇見どころシートで読み取ったごんや兵十の気持ちの変化をもとに、自分の感想や考えを見どころ紹介に生かして、まとめることができる。【思考力、判断力、表現力等】
4	7 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○話し合ったことをもとに、次時ではどうするか考えるように声をかけることで、次時への見通しがもてるようにする。